

# イタセンパラの野生復帰成功

水産研究部 内水面グループ

## ■ 調査研究の概要

大阪府立環境農林水産総合研究所と国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所では、淀川水系で野生絶滅に近い状態に陥っているイタセンパラ(国指定の天然記念物、国内希少野生動植物種)の野生復帰に取り組んでいます。



イタセンパラ



城北ワンド群(大阪市旭区)

## ■ 調査研究の経緯・内容

- 昭和46年 当研究所の保護池で生息域外保全開始  
平成18年 **淀川で確認途絶える**、外来魚による食害や外来植物による生息環境悪化が原因  
平成18年 最大の生息地の城北ワンド群(大阪市旭区)で外来魚駆除の研究を開始  
平成21年・23年 淀川の外来種の少ない水域に各500尾放流、場所は非公開  
平成23年 淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク(イタセンネット)設立、住民参加型保全活動開始  
**平成25年春** 平成23年の放流した個体が自然繁殖、約1000尾の稚魚を確認  
⇒ほぼ絶滅状態から定着へ、**野生復帰成功**  
平成25年10月 城北ワンド群の外来魚の軽減に成功  
⇒公開で地元小中学生が500尾のイタセンパラ親魚を放流

## ■ 活用できる分野

- **企業が果たす社会的責任(CSR)における生物多様性分野での支援・協力**
  - ・研修等による従業員への生物多様性に関する意識向上
  - ・希少魚種(メダカなど)の保全 → おおさか生物多様性パートナー協定の締結
  - ・社員ボランティアによる保全活動への参画 → イタセンネット活動への参画誘導
- **学校教育分野での支援・協力**
  - ・生物多様性の意識・認知度向上、地域環境学習、出前授業など
- **NPO等の市民団体の生物多様性保全活動の支援・協力**



(淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク)

淀川城北ワンド群イタセンパラ放流式



野生復帰支援の保全活動 (イタセンネット)



- 《団体》
- 一般社団法人 水生生物保全協会
  - NPO法人 エコネット近畿
  - NPO法人 nature works
  - NPO法人 大阪府海域美化安全協会
  - 公益財団法人 河川財団 近畿事務所
  - 水生生物センター・サポートスタッフ
  - 人を自然に近づける川いらい会
  - 琵琶湖を戻す会
  - 淀川管内河川レンジャー
  - 淀川水系イタセンパラ研究会
  - 淀川を守ろう会
- 《企業等》
- パナソニック エコリレー ジャパン
  - 京都水族館
- 《行政》
- 環境省 近畿地方環境事務所
  - 国土交通省 近畿地方整備局 淀川河川事務所
  - 大阪府環境農林水産部 みどり推進課
  - 大阪市旭区 市民協働課 にぎわい創出担当
- 《試験研究機関》
- 大阪府立環境農林水産総合研究所 (計 25 団体)
- 《大学》
- 大阪工業大学 城北水辺クラブ
  - 大阪産業大学 エコ推進プロジェクト
  - 大阪産業大学 水生生物研究室
  - 大阪商業大学 経済学部 原田ゼミナール
  - 大阪府立大学 キャンパスビオトップ研究会
  - 大阪府立大学 里環境の会OPU
  - 摂南大学 エコシビル部
- イタセンパラを守る  
取り組みに参加しませんか
- 平成23年8月28日設立
- センちゃん

【協力】 国土交通省 近畿地方整備局 淀川河川事務所

## イタセンパラ野生復帰の成功

○上原一彦・内藤 馨（水産研究部）

### 1. 目的

国の天然記念物の淡水魚イタセンパラは、淀川のシンボルフィッシュと呼ばれ、かつては淀川全域に広く分布していた。しかし、河川改修によるワンドの消失、河川の攪乱の減少、外来魚の増加などにより個体数が著しく減少し、平成 17 年を最後に生息確認が途絶えた。そこで、当研究所では、国土交通省 近畿地方整備局 淀川河川事務所とともに、淀川への野生復帰プロジェクトに取り組んだ。

### 2. 経緯と今後の展開

#### (1) イタセンパラの繁殖技術の確立

昭和 46 年からイタセンパラの飼育繁殖に取り組み、屋外保存池を用いた自然繁殖法や、人工授精による繁殖技術を確立した。

#### (2) イタセンパラの放流による野生復帰の試み

平成 21 年と 23 年の秋に、自然繁殖させたイタセンパラの親魚各 500 個体を外来魚が比較的少ない水域に放流し、野生復帰を試みた。21 年の放流では、翌年春に稚魚が 133 尾確認されたものの、その後の確認が途絶えた。一方、23 年の放流では、翌年秋の親魚数が推定約 1,000 尾と増加し、放流時に比べ倍増するなど、一定の成功を収めることが出来た。しかし、密漁防止の観点から放流場所は非公表としており、地域住民が保全活動に参加できないという課題が残った。

#### (3) 外来魚駆除技術の確立

かつての一大生息地として有名な城北ワンド群では、大量繁殖したブルーギルやブラックバスによる食害や、ナガエツルノゲイトウなどの外来水生植物の繁茂による環境悪化により、野生復帰は困難な状態であった。そこで、平成 18 年度～20 年度に、城北ワンド群のうち比較的小規模なワンドで、効率的な駆除方法の確立について研究を行った。その結果、新たに開発した方法（藻場トラップ）や既存の駆除法（籠もんどり、人工産卵床など）を、外来魚の成長段階に応じて組み合わせることで、ワンド内の外来魚の割合を、当初の 80%程度から約 50%に減らすことに成功した。次に、平成 21 年度から 3 年間、かつてイタセンパラが多数生息していた大規模なワンド 3 か所を中心に外来種駆除の大規模実証試験を行った。その結果、ワンド内の外来魚の割合を 2～3 割程度までに減少させることに成功した。それにより、イタセンパラの近縁種のシロヒレタビラなどが増加し、かつての豊かな魚類相が回復しはじめた。

#### (4) 研究成果を基にした社会実験

研究成果を市民参加型の保全活動に移行するため、市民団体や企業、大学、行政からなる「淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク（イタセンネット）」を設立し、生物多様性保全モデルとなるようイタセンパラの野生復帰の社会実験に取り組んだ。その結果、野生復帰に向けた環境が整ったことから、平成 25 年 10 月、城北ワンド群の一部において地元の小中学生らを招いて、イタセンパラ親魚 500 尾を公開放流した。

今後も引き続き、地域住民をはじめ、企業の CSR 活動や学校教育分野等と連携し、市民参加型の生物多様性保全活動を支援していく。